

SENDAI Lifestyle



特集

災害時の外国人住民との 共助に向けて

インタビュー 多文化防災×私の気づき
座談会 共助が生まれる地域づくり

多文化SENDAI 仙台国際交流クラブ

外国につながる子どもたち 仙台市立中山小学校

コラム 仙台ではたらく / 子育て in せんだい / 留学生サポートの現場から

C I R 通信 初めまして仙台 / SenTIAで仕事をし

SenTIA

Sendai Tourism, Convention and
International Association

(公財) 仙台観光国際協会 (SenTIA) 国際化
事業部は、言葉や習慣の異なる外国人住民や
外国にルーツを持つ人たちと暮らす「多文化
共生」のまちづくりのため、さまざまな事業
を行っています。

WEBサイト



X (旧 Twitter)



Facebook





特集

災害時の外国人住民との 共助に向けて

コロナ禍による行動制限が緩和された2023年春、毎年4月末現在で公表される仙台市の外国人住民数は14,540人となり、過去最高を記録しました。入国制限が緩和され、仙台の大学や日本語学校等にはこれまで以上の留学生が入学し、人手不足の地域経済でも外国人就労者が増加しています。

また、2024年元日の能登半島地震をはじめ、日本各地では自然災害が頻発しています。今号では、増加する外国人住民とこれからの地域防災について考えます。

東日本大震災の教訓と
共生の取り組み

外国人人口が集中する青葉区中心部。留学生や大学関係者が多い国見地区・片平地区では、2011年の東日本大震災で多くの外国人被災者が地域の避難所に向かいました。言葉の問題、文化・習慣の違い等から様々なトラブルが発生し、避難所運営に当たった自治会・町内会関係者は大変苦労しました。「外国人はマナーが悪い」「外国人のせいで本当に支援が必要な人が避難できなかった」など、地域の一部には外国人に対する誤解や偏見も残りました。

震災後、地域の関係者は日頃のつながりと相互理解を深める取り組みを進めてきました。その一つが地域の防災訓練に外国人住民が主体的に参加する工夫です。片平地区ではイスラム教徒の学生たちに炊き出しを担当してもらい、ハラルスープの試食を提供。国見地区では留学生の代表が外国人避難者への連絡役を担いました。こうした取り組みを毎年続けることで、共生の地域づくりを進めてきました。

変化する外国人状況
新たな課題

東日本大震災から13年目、コロナ禍で減少していた外国人人口も増加傾向に戻った2024

年。地域の外国人や防災に関する状況は変化を迎えています。

震災当時1万人程度だった仙台市の外国人人口は、2024年1月1日現在で15,781人に増え、総人口における外国人比率は約1.5%になっています(仙台市住民基本台帳)。人口増に伴い、青葉区以外にも集住地域が増えてきています。国籍の割合も変化し、当時は少数だったネパールとベトナムが大きな割合を占めるようになりました(図1)。近年、市内にはこの2か国のレストランや雑貨店が増えており、回国人のコミュニティも生まれています。また地域経済を支える労働力としても存在感が増しており、宮城県内の外国人労働者数は震災前2010年と2022年の比較で23%も増加しました(図2)。一方、自然災害も近年、多



2016年片平地区の防災訓練
ハラルの炊き出し

図1 ネパール・ベトナムの増加

仙台市の外国人住民 国籍・地域別人数と割合の変化 (各年4月末現在)

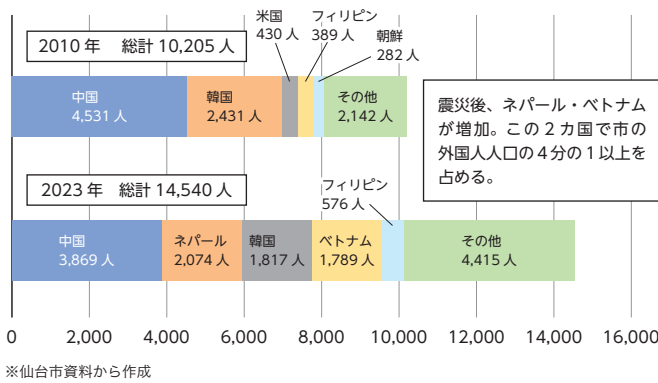
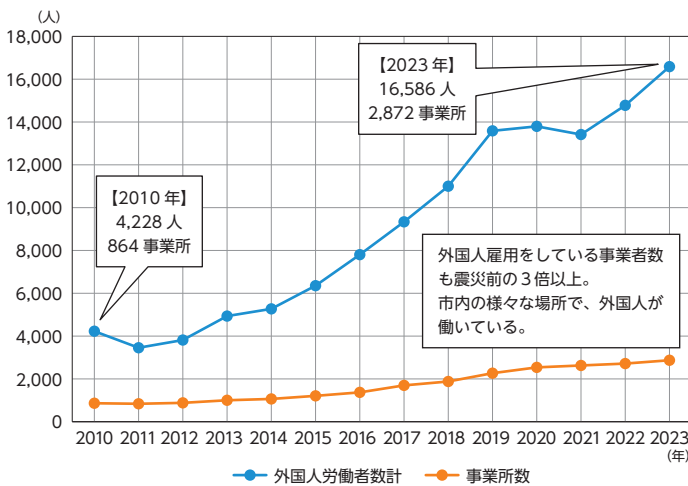


図2 外国人労働者の増加

宮城県の外国人労働者数の推移 (各年10月末現在)



町の清掃活動を行う
東洋国際文化アカデミーの留学生たち

様化・頻発化・激甚化が進んでいます。東日本大震災以降も、2016年の熊本地震、2018年の北海道胆振東部地震、今年2024年の能登半島地震など、大規模地震が繰り返し発生。気候変動の影響により、豪雨や台風など風水害の被害も頻発しています。災害ごとに防災対策や避難方法は異なり、外国人住民への啓発や情報発信の方法にもさらなる工夫が必要になっていきます。

さらに、2019年末からのコロナ禍の行動制限により、これまで積み上げてきた地域防災の取り組みが停滞。お祭りや防

**カギは共助が生まれる
地域づくり**

能登半島地震で改めて明らかになったのが、大規模災害時の公助の限界です。広範囲が被災し交通網が寸断される大災害では、行政の支援は直ちには行き届きません。発生後しばらくは、

地域住民の自助・共助で避難所の立ち上げや要援護者の対応などを乗り切るしかなく、住民同士の協力は不可欠です。増え続ける外国人住民と日常のつながりが持てないままでは、災害時に混乱が起ころうでしょう。

被災時の外国人支援は、29年前の阪神・淡路大震災をきっかけに全国で進められてきました。防災ツールや災害情報の多言語化、避難所運営での配慮、支援ボランティアの育成など、その取り組みは年々進化しています。

ます。さらに、外国人の増加と定住化が進む中で、外国人住民自身が地域の防災活動や災害時支援に取り組む例も増えてきています。情報網や交通アクセスが遮断される大規模災害時、最後に頼りになるのはコミュニケーションの力です。外国人を含む多様な人たちとの共生が、今求められています。

SenTIA せんだい外国人防災リーダー育成事業

2020年度からスタートした、災害や防災に関する研修を受け地域防災に貢献する外国人住民(防災リーダー)を育成する事業です。災害時に限らず地域住民と協力しながら防災に取り組み、外国人と日本人を繋ぐ架け橋のような存在になることを期待しています。

<https://int.sentia-sendai.jp/j/life/bousai.html>



2020年の外国人防災リーダー研修。
指定避難所となる小学校を見学。

多文化防災×私の気づき

座談会 共助が生まれる地域づくり

外国人住民の中には日本で初めて災害を経験し戸惑う人も多い一方、その経験をその後の生活に生かしている人もいます。また外国人人口の増加で、危機管理などの現場でも取り組みが進んでいます。今回は当協会が防災事業に協力いただきました3人から話を聞きました。

—梁さん、ジョイさんは日本で大きな災害経験がありますか？

梁 1995年1月の阪神・淡路大震災を経験しています。当時私は留学生で、神戸で被災しました。半月ほど小学校の体育館で避難生活を送りましたね。初めの数日は物資が来ないし、体育館がとても寒かったのを覚えています。

ジョイ 私は2011年3月の東日本大震災です。その日は仕事が休みで、友人の家にいました。マンションの9階ですごく

揺れて、私はここで死ぬのか。その後近くの避難所で5日間生活したんですが、お年寄りが多く不安で泣いてしまう人もいました。夜怖くて眠れない人には「大丈夫、もう地震は来ないですよ」と声をかけたりしましたね。

梁 当時日常会話は問題なかったですが、非常時の混乱の中で日本語が分からず住民とのつながりもない外国人はもっと大変だったと思います。去年5月に縁あって仙台に住むことになり、神戸での経験を活かしたいと思い「仙台市災害時言語ボランティア」に登録しました。

ジョイ 私は震災以降防災意識がとて強くなりました。フィリピンの家族や親戚にも自分の経験を共有し、食料などの備蓄を呼び掛けています。3ヶ月に1回は家族に確認の連絡をして

いるのですが、家族と同居している若い姪からは「おばさん、うるさい」って言われています(笑)。

—外国人住民や観光客が増加する中、災害時の外国人支援は行政でも重要な課題になってきています。早坂さんは消防署時代から取り組みを進めてこられましたよね。

早坂 東京オリンピックを控えた2019年、私は仙台駅前の商業施設の避難訓練を担当していました。その年は外国人観光客などの増加も予想されていたので、外国人対応訓練を加えることにしました。近隣の日本語学校の協力で留学生に外国人避難者役を担当してもらい、店舗スタッフが外国人を誘導したり、消防隊員がけが人の対応を行うなどの訓練に挑戦しましたね。

—消防隊員の皆さんが当時普及し始めた翻訳機器を試すなど、工夫されていましたね。

しいことが分かりました。在住の外国人であれば避難誘導などは「やさしい日本語」で十分に伝わるし、周囲に通訳できる協力者を呼び掛けることも有効だと認識しました。

—市役所本庁の危機管理局に移られてからも、当協会の「せんだい外国人防災リーダー育成事業」などに協力いただいています。

早坂 リーダー研修の初年度には外国人受講者に「自主防災活動」について話をし、2019年の台風19号で被害のあった太白区の旧筑川周辺や、東日本大震災で津波被害のあった沿岸部を案内しました。防災意識を持つ外国人の皆さんが防災を学び、地域で活動していくのは大切だと思います。ジョイさんも参加していましたね。

ジョイ はい。講座では多くのことを学びました。町内会以外にも、近所の人に自分から大きな声で「こんにちは！」って挨拶しています。日本人はシャイな人も多いけど、挨拶すると挨拶が返ってくる。何かあったときに話がしやすくなって、いつも話している人だから大丈夫と思われ。いつでも助け合える存在になると思います。これからも地域と繋がっていきたいです。

—最後に、皆さんの経験から大切だと思うことを教えてください。

早坂 「自助・共助・公助」という考え方があり、公助で全て対応するのは難しいので、まずは「自助」としての災害への備えをお願いします。備えていても周りの助けが必要な場面がでてきます。そのときは、地域の中の「共助」が大切で、日頃から町内会や近所の方と交流してほしいですね。

ジョイ 私は、仙台に来たばかりの外国人に、自分が住んでいる地域をもっと知ってほしいです。例えば、周りの地名や地形などを知らない、災害情報が届いても今いる場所が危険か分かりません。災害が起きてからでは遅いので、事前に情報収集してほしいですね。

梁 私は20年ぶりに日本に来て、昔より地域の交流が薄れていて、避難しても全く知らない人と避難生活を送る可能性があると感じました。日本人・外国人と区別するのはなく、一人の人間としてお互いに理解し、尊重し合える関係になればと思います。



はやさか まさと
早坂 政人 さん

2003年市消防局に入庁。救急隊員や火災予防に関する業務を担当し2020年から危機管理併任となる。2023年4月市防災・減災アドバイザーに任命され市民講座やメディアを通じて自助や共助に役に立つ情報を発信している。

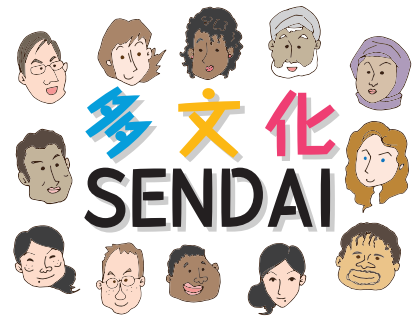


カルメラタ ジョイ オハ タムさん
フィリピン出身。来日約20年。2011年東日本大震災を経験。現在は仙台市災害時言語ボランティアとせんだい外国人防災リーダーとして活動している。



りょう しゅんこう
梁 春江 さん

中国・北京出身。1989年から6年間関西で留学・仕事のため来日。その後、20年間中国で商社勤務。2023年5月に来仙。現在はニュースカイグローバル株式会社代表取締役。仙台市災害時言語ボランティア。



仙台で活動する外国人コミュニティや
多文化共生・国際交流団体を紹介します

仙台国際交流クラブ

団体紹介

仙台多文化共生センターなどで、2ヶ月に1回程度、仙台在住の外国人との交流や国内外の文化体験会を実施。イベントやワークショップの運営ボランティアも随時募集中。イベントの参加やボランティア募集については、団体HP <https://sendai.jcfc.com>、お問い合わせは sendai@jcfc.com まで。

仙台国際交流クラブは、2020年に異文化理解と交流を目的に活動を始めました。

主な活動は、海外の映画上映会、カフェで会話などを楽しむ交流サロン、海外や日本の伝統文化体験などです。

2023年5月には、昨今のウクライナの現状も知ってほしいという思いから、仙台在住のウクライナの方に講師をお願いして、ドニプロ地方の伝統的なベトリキウカ塗りを開催したり、7月には仙台に住む外国の方も楽しめるように、こけしや埴人形の絵付けワークショップなども行いました。

代表の佐藤さんは、活動を通して「自分たちが知らない文化を体験できることが素直に嬉しい。また、昔からの伝統文化がなくなることの危惧もあり、日本文化体験も始めた。言葉で聞かだけよりも、映画を見て感じたり、一緒



昨年9月に行われた「中国パンダ切り絵体験会」での様子

になって異文化に触れることで、参加者同士の交流も生まれる。今後も、体験イベントなどを通して海外の文化や日本の伝統文化を伝えていきたい。」と話していました。

今年もさまざまなイベントを計画中のこと。今後の活動も楽しみます。

外国につながる子どもたち



多様な子どもたちが学ぶ学校の様子を現場の先生に伝えてもらいます

仙台市立中山小学校

いとう みお
伊東 望緒 教諭

中山小学校勤務5年目。
今年度は児童支援担当として日本語指導のコーディネートをやっている。
趣味はキャンプ旅。



私は中山小学校で、外国にルーツを持つ児童支援のコーディネートをしています。

外国と日本での学校生活にはたくさん違いがありますが、児童にとってもこれまでの生活や学習で使ってきた言葉や習慣が異なることは、大きな不安です。

円滑な言語習得のために必要なのが、児童の母語が話せる指導協力者と担任との橋渡しです。これまで使ってきた言語で補いながら日本語を学べるということには安心につながります。また、児童が日本語を使って自分の思い

や悩みを話すことは難しいため、指導協力者に児童との会話の中で思いを引き出してもらい、それを担任に伝えることで、児童理解や指導につながります。

生活面についても、関係機関と積極的に連携を図り、見通しを持って生活が送れるようにしています。準備物や約束諸活動など、私たちには普通に思えることも、外国ルーツの児童にとっては分からないことが多々あります。訪問派遣を活用し、保護者と関係機関との橋渡しをすることで、児童が安心して生活を送れるように支援しています。

仙台市教育委員会 「帰国・外国人児童生徒等 指導協力者派遣事業」

日本語指導の必要な小学生・中学生のために、学校にボランティアを派遣しています。ボランティアは、母語による通訳支援や日本語での指導により児童生徒の適応をサポートします。1回のサポートは2時間、最大40回です。希望する場合は、学校の先生かSenTIAに相談してください。



読む書く話す学習のほか、カードゲームなどを使って、興味のある話題へと会話を広げています。

仙台で はたらく



シュレスタ ハリ ゴバルさん / ネパール出身。株式会社H&S代表取締役。KUMARI SHOPPING CENTER経営。2021年から2年間海外在住ネパール人協会日本支部（仙台）の理事長を務めた。

小さいころ我が家に滞在していた農業支援の日本人がとても優しく、日本が好きになりました。大学を卒業し来仙したのは2010年の4月です。震災の時も日本人の優しさに助けられました。

日本語学校と専門学校を卒業し一度は就職したのですが、2016年に起業し雑貨店を開店しました。自分も周りの留学生もネパールの食材を手に入れづらかったことがきっかけです。その後「本場の味を届けたい」という思いから料理店もオープンしました。「クマリ、知ってるよ」と聞くと嬉しくなります。

海外在住ネパール人協会の活動では、コロナ禍による医療機関の血液不足を知りネパール人を集めて献血をしました。昨年5月に東北道のバス事故でネパール人2人が亡くなったときは手続きなどのサポートをしました。ネパール人からの困りごとの相談があるときは、できるだけ仕事よりも優先しています。仙台の皆さんに伝えたいのは、万が一悪いことをしたネパール人がいても全てのネパール人が悪いと思わないでほしいということです。日本のために役に立ちたいネパール人がほとんどです。分かりあうために、今後日本人とネパール人の交流イベントを開催したいと思っています。



青葉区花京院にある店内の様子。他にインド・ネパール料理KUMARI（クマリ）を経営しています。

子育て せんだい



相原 俊夫（あいはら としお）さん / 2005年に中国に渡り起業。中国で結婚・子育てを経験し、2023年7月に一家で帰国。

私たち家族はずっと中国で生活していました。しかし、いつかは日本で生活し、子どもたちには日本語や日本の文化を知ってもらいたいという思いがあり、家族全員で帰国する計画も立てていました。

ところが、いよいよ帰国しようと考えていた2020年、世界はコロナ禍となり帰国は延期せざるを得ませんでした。やっと落ち着いた頃には、娘は中学3年生、息子は小学6年生。日本語がほとんど話せない子どもたちを日本の学校にどのように通わせればいいのか、受験はどうすればいいのか。日本での子育て経験がない私には全く見当がつかず、さまざまな情報を集めるところから始めました。

仙台の学校への編入にあたっては公立・私立両方の学校を見学しましたが、日本語学習の支援が受けられる公立学校に、それぞれ1学年下げて入学することにしました。特に娘は高校受験が迫っていたので、1学年下げること日本語や教科の勉強にじっくり取り組めると考えたからです。私も宿題をみてあげたり、進路について一緒に話し合ったり、親としてできる限りサポートしたいと考えています。

学校の勉強はもちろん大事なですが、文化の違いや日本語など、日々新しい発見の中で子どもたち自身が興味・関心を持って意欲的に取り組んでいくことも大事にしてあげたいと思います。



日本語の宿題をみるのは私の役割です。今は日本語の意味や使い方など、子どもたちの「なぜ？」に答えるのが中心の生活です。

留学生サポートの現場から



白鳥 美幸（しらとり みゆき）さん / 名古屋出身。仙台ランゲージスクール事務局長。問い合わせ対応、学生指導等、幅広く手掛ける。サボテンの花と猫が好き。

当校では新入生が入国すると、まず自己紹介がきちんとできるような指導をしています。名前も早口で聞き取りにくいいため、ゆっくり！ はっきり！ と繰り返して伝えています。挨拶やジェスチャーにも自国の流儀が染みついています。「はい」と言いながら首を横に振る学生もいます。彼らの文化を理解してあげることがもちろん大切ですが、まずは日本式が身に付くよう根気よく指導しています。教室内だけではなく、事務所で対応する際も気づいた事は直すよう心掛けています。コミュニケーションの基本は挨拶であり、登下校時には積極的に声がけをしています。

時折、コンビニなどでアルバイト中の学生を見かけますが、きちんと業務をこなしているだろうかと気を揉んでしまいます。彼らは多くの人と交わることで日本社会に馴染み、成長しています。当校で指導したことを礎としつつ、個性や実力を発揮し、社会の一員として活躍してほしいと願っています。



遠足での一コマ。笑顔がまぶしいです。

CIR通信 Vol.6 初めまして仙台／SenTIAで仕事をして

仙台市国際交流員（CIR）がSenTIAで携わっている多文化共生事業について紹介します。

CIR テシア

カナダ・バンクーバー出身。
来日2年目。
猫とコーヒーが好き。



CIR イーライ

アイルランド・コーク出身。
来日1年目。
小説と登山が好き。



今回は
イーライから
紹介します！

※国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations）
JETプログラム（政府の外国青年招致事業）で来日し、自治体の国際交流担当部局等で国際交流や多文化共生事業に携わっています。
仙台市には現在、2名のCIRがいます。

初めまして。アイルランド出身のイーライです。CIRとして2023年8月に着任しました。今回はSenTIAで働いて数か月の感想を話したいと思います。

私たち仙台市のCIRは市役所とSenTIAに月替わりで勤務しています。初めてSenTIAで働いたのは来仙して一か月経ったころでした。市役所では語学力を生かした翻訳業務が多いのですが、SenTIAでは、翻訳以外にもさまざまな業務があります。

SenTIAに来て2日目には、仙台のメディア関係者を前に話をすることになりました。この『みやぎ「災害とメディア」研究会』では、災害報道の際に外国人の視点も考えてもらうため、他の外国人参加者と共に被災経験（自分の場合は経験のなさ）について発表しました。

その他にも、先輩CIRのテシアさんと自国と日本の秋の風物について話した「FMラジオ多言語放送局」の収録。外国人にとってわかりやすい日本語を市職員と一緒に練習した「やさしい日本語講座」。気付いたら、「初めて」がいっぱいの新生活を送っています。

これまで携わってきた事業はさまざまですが、首尾一貫して言えるのは、仙台在住の外国人についての理解を深めてもらうというねらいがあることです。Date FMの防災ラジオ番組

「Global Talk」に出演したときには、被災経験のない私に話せることがあるのか不安になりましたが、今考えると、「日本人と外国人では経験や知識にさまざまな違いがある」ことを伝えるのが大事だと気づきました。

今後も自分の仕事が少しでも、仙台市の多文化共生・多文化理解の促進につながるよう頑張っていきたいと思っています。

仙台市のみなさん、これからもどうぞよろしくお願ひします。



ラジオ3「特別版 多文化Cafe」公開収録の様子。右から2番目がイーライさん。このラジオ3での収録も初めての経験でした。

SenTIA サポーター（国際化事業部 賛助会員）募集中！

言葉や文化の違いをこえて、誰もが生き生きと暮らせる「多文化共生の地域づくり」に向けて、皆様からの支援をお待ちしています。事業にご賛同いただける方は、どなたでもお申し込みいただけます！

会員の種類／会費（年度ごと）

学 生／1口 500円 個 人／1口 1,000円
市民団体／1口 2,000円 法 人／1口 5,000円

申込方法等については、ウェブサイトをご覧ください。
市民団体・法人会員のサポーターも紹介しています。

<https://int.senia-sendai.jp/j/activity/supporter.html>



2023年度市民団体会員のご紹介

仙台ボランティア英語ガイドGOZAIN

外国人のために英語で通訳・ガイドを行うボランティア団体です。
仙台・松島・近隣地の観光、国際会議やイベントで活動しています。
また、スキルアップと英語力の維持向上のため、各種研修や外国人との交流会を定期的に開催しています。

<https://gozain.jimdofree.com/>



仙台多文化共生センター をご利用ください

TEL 022-224-1919



仙台多文化共生センターでは、仙台に暮らす外国人住民の相談に多言語で対応しています。地域や学校、公的機関等からの各種相談にも応じています。お気軽にご利用ください。



通訳サポート電話 TEL 022-224-1919

3者間通話ができる電話を使って外国人住民への生活情報の提供と、通訳によるコミュニケーションのお手伝いをします。区役所・市民センター・保育所・学校などで、外国人住民とのコミュニケーションでお困りの際にご利用ください。(商用利用はできません)

対応言語 英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、タガログ語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、イタリア語、フランス語、ドイツ語、マレー語、クメール語、ミャンマー語、モンゴル語、シンハラ語、ヒンディー語、ベンガル語、ウクライナ語

外国語による相談対応

外国人住民の日常生活での困りごと、悩みごとに、外国語で対応します。スタッフが英語・中国語で対応します。その他の言語については「通訳サポート電話」で対応することがあります。中国語・韓国語・ベトナム語・ネパール語は、相談員がそれぞれ週に1~2回、仙台多文化共生センターで直接相談に応じます。

外国人のための専門相談会

在留資格、法律、仕事で困っていること、行政手続き、税金などについて、専門家に相談できます。事前申込が必要です。通訳も無料で申し込みます。詳しくはお問い合わせください。



2024年3月以降の予定 時間はすべて1:00 p.m.~4:00 p.m.

※開催日が変更になることがあるので、ウェブサイト(右側のQRコード)を確認してください

仙台出入国在留管理局	仙台弁護士会	宮城県行政書士会	宮城労働局	東北税理士会
毎月第4金曜	毎月第2金曜	毎月第1土曜	奇数月の第3木曜	次回予定は ウェブサイトで ご確認ください。

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地 仙台国際センター 会議棟1階
毎日 9:00 a.m.~5:00 p.m.(年末年始と月に1~2日程度の休館日を除く)
TEL : 022-265-2471
FAX : 022-265-2472
Email : tabunka@sentia-sendai.jp

仙台多文化共生センターは、仙台市の委託を受け、
(公財) 仙台観光国際協会 (SenTIA) が運営しています。

